

3 オカヤドカリ

【陸宿借】(節足動物甲殻綱軟甲亜綱十脚目異尾類オカヤドカリ科)

指定 昭和 45 年 11 月 12 日 国指定天然記念物(動物)
所在地 小笠原諸島・琉球列島
管理者 所在市町

オカヤドカリは例の少ない陸生種のヤドカリである。小笠原諸島をはじめ、琉球列島や台湾以南の地域に広く分布する。宿貝として背負っている貝殻は、陸生貝や、海産貝など多種にわたるが、アフリカマイマイ(陸生)の殻が圧倒的に多い。海浜近くに多くいるが山中にもいる。ゲンバイヒルガオやハマゴウなどの草木の繁みや石の下に隠れている。体色は暗褐色で、頭胸部は甲でおおわれ、腹部は軟らかく右に巻いている。甲の長さ約 4 ㌢、甲幅約 2.5 ㌢、体重約 70 グラムになり、長さ約 12 ㌢、重さ約 50 グラムの殻を背負う。第一触覚がたいへん長い。第一鉄脚のはさみは常に左側が大きい。第二・第三鉄脚は歩脚で第一鉄脚よりも約 1.5 倍長い。第四鉄脚は不完全なはさみを、第五鉄脚は完全なはさみを持っている。腹脚は雄では退化しているが、雌は左側のみ 3 腹脚が残存している。雌は、5 月から 8 月頃、卵が孵化する時に海水に帰り、腹につけたゾエア幼生を放出する。雑食性で、野菜・果物・肉・魚介類を食べる。夜行性で、おもに夕方から朝方にかけて行動する。日照条件からではなく、体内時計がこのリズムに関係しているらしい。嗅覚がすぐれ、夜になると公園などのゴミ捨て場に集まってくる。振動に敏感で、人が近づくと体をすばやく殻に引っ込めコロリと転がる。愛玩用に本土に数多く出され激減する恐れがあったため、天然記念物に指定された。

屋久島町では、栗生浜付近でよく見ることができる。

→ゾエア幼生

カニ・ヤドカリ類のメタノープリウス、プロトゾエアに次ぐ発育段階の幼生。有柄眼が完成し、付属肢ができる。